

第1学年音楽科学習指導案

1 題材名 どれみでうたったりふいたりしよう

教材名 「たのしくふこう」(鹿谷美緒子 作詞・作曲)

「どんぐりさんのおうち」(久野静夫 作詞 市川都志春 作曲)

「どれみであいさつ」(長谷部匡俊 作曲)

「なかよし」(海野洋司 作詞 佐井孝彰 作曲)

2 題材について

《新学習指導要領とのかかわり》

A 表現 (1) ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつこと。

ウ 思いに合った表現をするために必要な次の(ア)(ウ)までの技能を身に付けること

(ア) 範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりする技能

(イ) 自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能

(ウ) 互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能

(2) ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもつこと。

イ 次の(ア)及び(イ)について気付くこと。

(ア) 曲想と音楽の構造の関わり

(イ) 楽器の音色と演奏の仕方との関わり

ウ 思いに合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(ア) 範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏する技能

(イ) 音色に気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能

(ウ) 互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能

B 鑑賞 イ 曲想と音楽の構造との関わりについて気付くこと。

〔共通事項〕ア (ア) 音色 旋律 拍の流れ

(イ) 問いと答え

(1) 題材観

本題材では、これまでに学習してきた拍の流れやリズムに対する感覚を土台にして、新たに鍵盤ハーモニカの基本的な演奏の仕方を身に付けることをねらいとする。鍵盤ハーモニカは、児童が入学して初めて演奏する旋律楽器であり、息の使い方と指の使い方を同時に身に付けることができる。鍵盤の大きさは、低学年児童の手の大きさに合っており、鍵盤で演奏するときの指の使い方を学習するのに適している。また、鍵盤楽器でありながら、息を吹き込む強さを加減することで、表情豊かな表現ができることが特徴である。例えば、強く歯切れのよい息で元気よく弾んだ音を出したり、やわらかい息遣いで優しく流れるような音を出したりなど、歌うときのように

鍵盤ハーモニカに息を吹き込むことで、表現の幅が広がっていく楽しさを味わうことができる。児童が、思いをもって主体的に音楽表現を工夫する力も養っていく。

楽器に親しむにあたっては、児童が自由に楽しく演奏できる環境を大切にしつつ、「よい音」を導入時から意識できるよう学習を進める必要がある。ここで言う「よい音」とは、「音色に対する感覚」に「表現の技能」が伴った状態の演奏を指す。どのように演奏したいのか言葉で説明したり友だちと演奏し合ったりすることで「よい音」への意識が高まる。そうすることで、実際の言葉や音で確かめることができ、抽象的であった「音に対する感覚」が具体的になる。そのうえでどのように演奏したらよいか考えさせることで、児童の主体性を生かして「こんな音楽表現にしたい」という考えをもって演奏するようになるを考える。このような活動を、題材を通じて繰り返し取り入れることで、鍵盤ハーモニカの基本的な演奏の仕方を身に付けつつ、曲想を感じ取って表現を工夫するために音楽的な知識や技能を自ら発揮する場としたい。

また、鍵盤ハーモニカの学習と並行して、旋律を階名で模唱したり暗唱したりする活動を通して、音高の違いを感じ取りながら音程感を養う学習も行う。音程に対する感覚は、正しい音程で歌ったりみんなで声を合わせて合唱したりする音楽活動を行ううえで、とても重要な能力の一つである。2年生の「音のたかさのちがいをかんじとろう」の学習にも繋がる学習であるため、繰り返し階名唱の活動を行って音程感覚を養いたい。

(2) 指導観

「どれみであいさつ」は、鍵盤ハーモニカの基礎的な運指の練習のために作曲された曲である。ド、レ、ミの3音だけで構成されており、最後の小節のみ跳躍進行（ドミド）となっているが、それ以外は順次進行（ドレミ、ミレド）でできているため、指くぐりや指またぎ、ポジション移動のない、初歩的な鍵盤ハーモニカの演奏の仕方を身に付けることができる。1年生の児童にとって、薬指や小指は動かしづらいため、この曲でド、レ、ミの三音を繰り返し使うことで、親指、人さし指、中指を使うことに十分に慣れさせたい。「どれみであいさつ」の演奏に十分に慣れた後、「まねっこ」遊びを通して楽しく技能の習熟を図る。「まねっこ」遊びでは、鍵盤の位置に慣れさせながら、綺麗な音を意識して演奏することや、ペアの児童の綺麗な音を意識して模倣する「問いと答え」の活動を展開することができる。その際に友達の演奏を聴き、自分との音の違いに気づき、気付いたことを伝え合うことで、演奏方法によって音が変化することや、自分も同じ音で吹くためにはどうすればよいか考え工夫して演奏することができる。遊びを通して、児童が主体的に楽しく学ぶことができるようにしたい。

また、常に児童の考えが反映される授業展開が重要と考え、題材を通じて前時の振り返りを学習の導入に位置付け、児童の考えを引き出す手立てを講じる。小学校第1学年の段階では、前時までの学習記録を掲示して既習事項を想起させたり、前時より技能的に高めた活動に取り組みせたりしながら、楽しく既習事項の確認と定着を図る。さらに、自分の考えを具体的な言葉で説明することは難しいと想定し、自由な音楽表現や発言を教師が音楽的な要素で整理する。そうすることで、児童は具体的な体験から自分の思いと音楽表現との関わりを学ぶことができると考える。

3 題材の目標

- 鍵盤ハーモニカの基本的な演奏の仕方を身に付け、よい音に気付いて演奏しようとする態度を培う。

4 題材の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	①鍵盤ハーモニカの音色や演奏に興味・関心をもち、音の出し方に気を付けて演奏する学習に進んで取り組もうとしている。 ②鍵盤ハーモニカに親しみ、音色に気を付けて簡単な旋律を演奏する学習に進んで取り組もうとしている。 ③音の高低を感じ取りながら階名で模唱したり暗唱したりする学習に進んで取り組もうとしている。 ④範唱を聴き、ド～ソの音を使って模奏したり模唱したりする学習し進んで取り組もうとしている。	①音の高低や長短を聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取って、音の出し方を工夫している。 ②音色や旋律を聴き取り、音の高低を感じ取りながら音の出し方を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いをもっている。	①鍵盤の位置を覚え、音色に気を付けて鍵盤ハーモニカを演奏している。 ②息遣いによって音色が変わることに気付き、運指や音色に気を付けて、鍵盤ハーモニカを演奏している。 ③音の高さの違いに気を付けて、階名で模唱したり暗唱したりしている。	①演奏の仕方や音色が生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音色と旋律のかかわり合いに気を付けて聴いている。

5 研究の視点について

【視点1 9年間を見通した学び方の共有】

児童・生徒の音楽的な資質・能力を伸ばしていくためには、自らの主体性を発揮して音楽の学習に臨み続けることが必要であると考え。器楽においては、児童・生徒が音楽的な思考と音楽表現とを往還しながら、技能的な高まりを自覚しつつ新たな課題に向かっていけるようにすることが重要であると考え。具体的には、範奏からよさを見つけて「こんなふうに演奏したい」と関心をもち、「どうすればこんな演奏ができるのか」と考えて、実際に音で確かめながら活動に取り組んでいる姿を求めたい。そのためには、発達段階に応じて適切に設定されたねらいに対して、児童・生徒が「何ができるようになっているか」を理解して活動に向かえるようにしたい。児童・生徒が自身の演奏をよりよくするためにはどのような工夫をすべきかを考え、そのための課題を見つけて音で試していくような活動に繰り返し取り組めれば、自ら学びを深めていくことができるようになっていく。このような学び方が、9年間を通じた学習の基盤となると考える。その実現のために以下を柱に授業を組み立てる。

○ 発達段階を基にした活動の設定

児童が音楽的な思考と音楽表現を往還するためには、発達段階に応じた適切なねらいを設定したい。そのためには、指導要領の各学年の目標を踏まえた設定をして、無理なく児童の力を培っていききたい。9年間の器楽の目標を系統的に見ると、徐々に知識面の情報量が増え、技能も複雑になっていく。思考面については、次第に意図的に音楽表現を工夫する力が付くように求められている。例えば、「思考力・判断力・表現力等」の項目を見ると、曲想に対して、小学校低学年では「感じ取って表現を工夫」、中学年で「特徴を捉えた表現を工夫」、高学年で「特徴にふさわしい表現を工夫」と続く。音楽表現に対する考えの根拠を、曲想とそれを生み出している音楽的な要素をもって表現活動に取り組みやすくなるようにする必要がある。そして最終的に、「器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫すること。」へとつなげていくことが求められている。

そこで、小学校第1学年の鍵盤ハーモニカ導入期の活動においては、小学校学習指導要領の〔第1学年及び第2学年〕の目標から、まずはきちんと自分の音と向き合うことができるような場が重要であると考え。本題材では、比較的节奏の単純な短い楽曲を取り上げて楽譜を見ることへの負担を軽減した状態で、自由に音を出す活動からスタートする。その中で、児童の「どのような演奏にしたいか」を引き出すことで、自由に伸び伸びと活動しながらも無理なく息遣いと音色の関わりを知り、思いをもって演奏することができるようにしていきたい。

○ 児童・生徒の考えを基にした授業づくり

児童が自己の成長を確かめつつ、新たな課題に向かって主体的に思考し表現するためには、学習の見通しをもたせたい。児童の「今、何ができるのか」を受けて、「これから何ができるようになりたいか」を考えさせて、めあてをもって学習に臨めるようにする。そのためには、教師からの一方的なめあての提示ではなく、児童の疑問や課題意識を引き出すような手立てが必要となる。ここでは、題材を通じてまず授業の導入で振り返りを行って既習内容の確認をし、そのうえで本時のめあてを設定してく。

そして活動の中でも児童の考えを引き出すことを重視して、小学校第1学年の児童には、なるべく楽しく自由な音楽表現が許される場を確保したい。そこには、児童の無意識な考えが反映されていると考え、児童のつぶやきや音楽表現は詳細に見て変容を捉え、具体的に価値付けていく。まとまった言葉での表出が難しい発達段階の児童の考えは、教師が引き出して音楽的な要素で整理して示すことで明確にし、思いをもって表現するための知識を獲得させたい。さらに、誰かの音楽表現に対して、本人や聴いていた児童に「どのような工夫をしていたか」「どのようなところがきれいだったか」と問いかけたり、全体で同様の音楽表現を模倣させたりしながら共有し、実際の技能と知識も結び付けていきたい。そうすることで、児童は自然と多様な考えに触れることができ、音楽表現と知識・技能の結びつきを獲得していくことができると考える。

以上のような柱で授業を改善することで、できるだけ楽しく自由に活動している中から、小学

校第1学年なりに課題を見つけ解決していこうとする学び方が身についていくと考える。この経験がいずれ、多少難しい課題に直面したときでも自分たちの力で解決できるようになっていったり、題材全体を見通して各時間の活動を自分たちで考えたりすることができるようになっていくという力につながると考える。

6 題材の指導計画及び評価計画（10時間扱い）

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
1 次	1	ねらい 鍵盤ハーモニカに関心をもち、音の出し方を知る。 ○ 場面や様子を想像しながら、鍵盤ハーモニカのよさに気付いて聴く。 ・ 鍵盤ハーモニカの範奏を場面や様子を想像しながら聴く。 ・ どんな音が聴こえたかについて話し合う。 ・ 鍵盤ハーモニカを演奏するまねをしながら聴く。	①演奏の仕方や音色が生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音色と旋律のかかわり合いに気を付けて聴いている。(鑑賞の能力)
	2	○ 音の高低や長短を工夫して、いろいろな音を吹く。 ・ 鍵盤ハーモニカの構え方を覚える。 ・ 音を出すとき、音を止めるときの約束を覚える。 ・ 「たのしくふこう」を歌う。 ・ 歌に続けて自由に音を出す。 ・ 歌と鍵盤ハーモニカで演奏する。 ○ どのような音色を良いと感じるのかを考え、全体で共有する。 ・ 演奏の仕方とそれによる音の違いを考える。 ・ 楽器の片付け方を覚える。	①音の高低や長短を聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取って、音の出し方を工夫している。(音楽表現の創意工夫)
2 次	3	ねらい 息遣いと音色のかかわりを知り、音色に気を付けて演奏する。	①鍵盤ハーモニカの音色や演奏に興味・関心をもち、音の出し方に気を付けて演奏する学習に進んで取り組もうとしている。(音楽への関心・意欲・態度) ①鍵盤の位置を覚え、音色に気を付けて鍵盤ハーモニカを演奏している。(音楽表現の技能)
		○ 音の出し方に気を付けて、鍵盤ハーモニカの演奏の仕方に親しむ。 ・ 範唱を聴いたり、歌ったりする。 ・ 鍵盤ハーモニカのドとソの位置を見付ける。 ・ ドとソの位置を覚えて演奏する。 ・ 息の強さに気を付けて演奏する。 ・ 歌と鍵盤ハーモニカを合わせる。	

	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音の高さの違いを感じ取りながら、鍵盤ハーモニカのド、レ、ミの位置を覚える。 ・「どれみであいさつ」の範唱と範奏を聴いて曲全体の感じをつかみ、階名で模唱したり暗唱したりする。 ・鍵盤のドレミの位置を知る。 ・ド、レ、ミの指番号を知る。 ・運指に気を付けて演奏する。 	①鍵盤ハーモニカに親しみ、音色に気を付けて簡単な旋律を演奏する学習に進んで取り組もうとしている。(音楽への関心・意欲・態度)
	5 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運指や音色に気を付けて、鍵盤ハーモニカを演奏する。 ・音色を工夫しながら「どれみであいさつ」を鍵盤ハーモニカで演奏する。 ・音色に気を付けて「どれみであいさつ」を演奏し合う。 	②息遣いによって音色が変わることに気付き、運指や音色に気を付けて、鍵盤ハーモニカを演奏している。(音楽表現の技能)
3 次		ねらい 階名と音の高さを知り、ドレミで演奏したり歌ったりする。	
	6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音の高さの変化を感じ取って、旋律を階名唱する。 ・「なかよし」の範唱や範奏を聴いて、階名で模唱したり暗唱したりする。 ○ 鍵盤ハーモニカのファとソの位置を覚える。 ・ファとソの位置と指番号を知る。 ・運指に気を付けて演奏する。 	③音の高低を感じ取りながら階名で模唱したり暗唱したりする学習に進んで取り組もうとしている。(音楽への関心・意欲・態度)
	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌の組と鍵盤ハーモニカの組に分かれて演奏する。 ・二人一組になり、歌と鍵盤ハーモニカに分かれて「なかよし」を演奏する。 ・歌の組と鍵盤ハーモニカの組に分かれて、音の出し方を工夫して演奏する。 	②音色や旋律を聴き取り、音の高低を感じ取りながら音の出し方を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いをもっている。(音楽表現の創意工夫)
	8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音色に気を付けて「どれみふぁそのまねっこ」遊びをする。 ・範唱に続けて全員で模奏したり、一人ずつ順番に模奏したりする。 	④範唱を聴き、ド～ソの音を使って模奏したり模唱したりする学習を進んで取り組もうとしている。(音楽への関心・意欲・態度)
	9	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音の高さの違いに気を付けて階名唱する。 ・「どんぐりさんのおうち」の範唱を聴いて、気が付いたことを話し合う。 ・教科書の挿絵の風船を指さしながら範唱を聴く。 ・手の位置を変えて音の高さを表しながら階名唱をする。 	③音の高低を感じ取りながら階名で模唱したり暗唱したりする学習に進んで取り組もうとしている。(音楽への関心・意欲・態度)
	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音の高さの違いを意識して「どれみのまねっこ」遊びをする。 ・遊び方の説明を聞き、歌の「まねっこ」遊びをする。 	③音の高さの違いに気を付けて、階名で模唱したり暗唱したりしている。(音楽表現

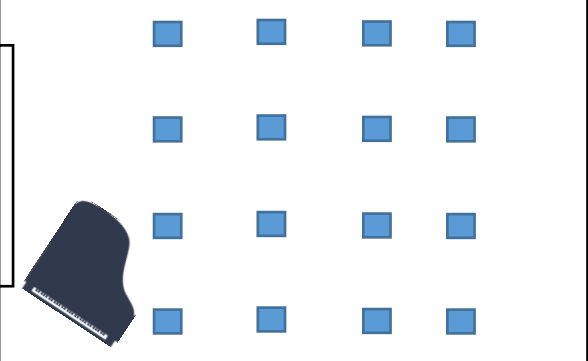
	<ul style="list-style-type: none"> ・手の位置を変えて音の高さを感じ取りながら模唱する。 ・範唱に続けて全員で模唱したり、一人ずつ順番に模唱したりする。 	の技能)
--	---	------

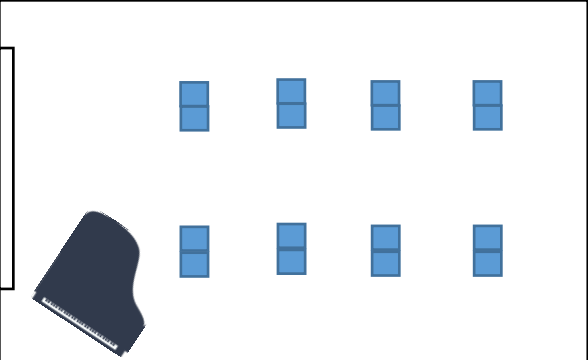
7 本時の学習 (5 / 10)

(1) 本時の目標

- 息遣いによって音色が変わることに気付き、運指や音色に気を付けて、鍵盤ハーモニカを演奏する。

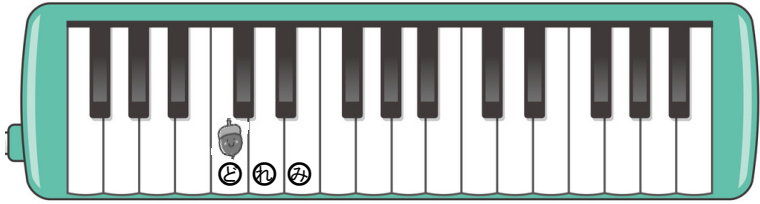
(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準<評価方法>
5分	1 前時の活動を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・今月の歌を歌う。 ・「たのしくふこう」を演奏し、同じ音を伸ばしている友達探しをする。 	○楽しい雰囲気をつくり、演奏できるようになっていることを確認して、自信をもたせる。 ○楽器への苦手意識をもたせないよう、児童ができたことを見つけ、称賛する。
5分	2 本時のめあてを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・「どれみであいさつ」を演奏する。 ・教師の演奏を聴き、どのように演奏したいかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・よい音でふきたい。 ・綺麗にふけるようにしたい。 ・めあてを確認する。 	○掲示物を見せ、姿勢や構え方息の吹き方を確認する。 ○抑揚の無い平坦な演奏を聴かせ、どのような演奏をしたいかを発表させることにより、めあてにしたい内容を考えさせる。 ○児童の意見は肯定的に認め、音楽的な要素で整理しながらまとめていく。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> じぶんでかんがえた よいおとで えんそうできるようにしよう。 </div>	
15分	3 個人で演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「どれみであいさつ」を自分の思うよい音で演奏できるよう工夫して練習する。 ・掲示物を見てどのような音を出したいのか考える。 ・自分の思うよい音が出せたら、黒板に書いてあるポイントを試してみる。 <p>【個人演奏の場】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;">  </div>	○「どれみであいさつ」を工夫して演奏することができるようにするため、児童の演奏する位置や向きを設定する。 ○互いの音の干渉を避けるため、教室内に広がり活動できる場を設定する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・息を強すぎないようにふいたらきれいな音がでた。 ・息継ぎはお休みのところでした。綺麗に演奏できるようになった。 ・息が弱すぎると音が止まってしまうことがわかったから、たくさん息をすってふいた。 ・指を離さないように弾くといい音がした。 	<p>○息の強さを工夫して吹くことができています。児童を手本として紹介し、演奏に対し、どのような工夫をしているかを問う。児童の発言は工夫したことと演奏の印象で整理して板書し、全体に共有する。</p>
10分	<p>4 「どれみであいさつ」を演奏し合う。 【ペア演奏の場】</p> 	<p>○ペアでの活動で、ペアの相手の手元を見やすくするため、隣り合わせの位置に変える。</p> <p>○教師と専科は鍵盤ハーモニカを持ち、ペアをつくることの難しい児童の相手となり、演奏させる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・やさしい音で演奏できたね。 ・どこに気を付けて演奏したのか教えて。 ・息を柔らかくふいてみたよ。 ・相手が工夫してよい音で演奏できていたら、相手のカードにシールを貼る。 ・色々な友達とペアになり、よい音を出すために工夫しながら演奏し合う。 	<p>○友達との演奏のよいところを伝えさせる。難しい場合は相手にどのように工夫したのかを尋ねさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆息遣いによって音色が変わることに気付き、運指や音色に気を付けて、鍵盤ハーモニカを演奏している。(音楽表現の技能②) <観察></p> </div> <p>○息遣いの工夫に意識が向かない児童には、教師が気付いたことを肯定的に伝えたり一緒に演奏したりして、音楽的要素に対する視点を与える。</p>
10分	<p>5 全員でよい音を出すための工夫を確認しながら演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒板で確認したよい音の工夫を確認し、意 	<p>○めあてから考えた「よい音」のためにどのような息遣いで吹いたのか、板書を見せて、振り返らせる。</p>

<p>識して演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイントを意識して演奏できたか、よい音で演奏することができたか考える。 ・綺麗な音が出せるようになった。 ・息の出し方で音が変わるから、他の感じの曲も吹いてみたい。 	<p>○本時の活動を自己評価させて、称賛することで児童の自己肯定感を高め、新たな課題をもたせて次時への意欲につなげる。</p>
---	---

(3) 板書計画

めあて	じぶんでかんがえた よいおとで えんそうできるようにしよう。																			
↓ ひとり	どれみのばしょ																			
↓ ペア																				
↓ みんな																				
いいおと ぼいんと		<table border="1"> <tr> <td>いき</td> <td>やさしく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>けんばん</td> <td>そっと</td> <td>やさしく</td> </tr> <tr> <td>いき</td> <td>つよく</td> <td>きる</td> </tr> <tr> <td>けんばん</td> <td>しっかり</td> <td>おす</td> </tr> <tr> <td>いき</td> <td>きらない</td> <td>のばす</td> </tr> <tr> <td>ゆびづかい</td> <td>まもる</td> <td></td> </tr> </table>	いき	やさしく		けんばん	そっと	やさしく	いき	つよく	きる	けんばん	しっかり	おす	いき	きらない	のばす	ゆびづかい	まもる	
いき		やさしく																		
けんばん	そっと	やさしく																		
いき	つよく	きる																		
けんばん	しっかり	おす																		
いき	きらない	のばす																		
ゆびづかい	まもる																			
<p>しせい</p> <p>げんきなおと</p> <p>なめらかなおと</p>																				